



ソーシャルキャピタルあふれる  
持続可能な付加価値創造都市を目指して

～地方創生につながるSDGs推進の取組み～

富山市長 森 雅志

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、**公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり**を実現

## <概念図>

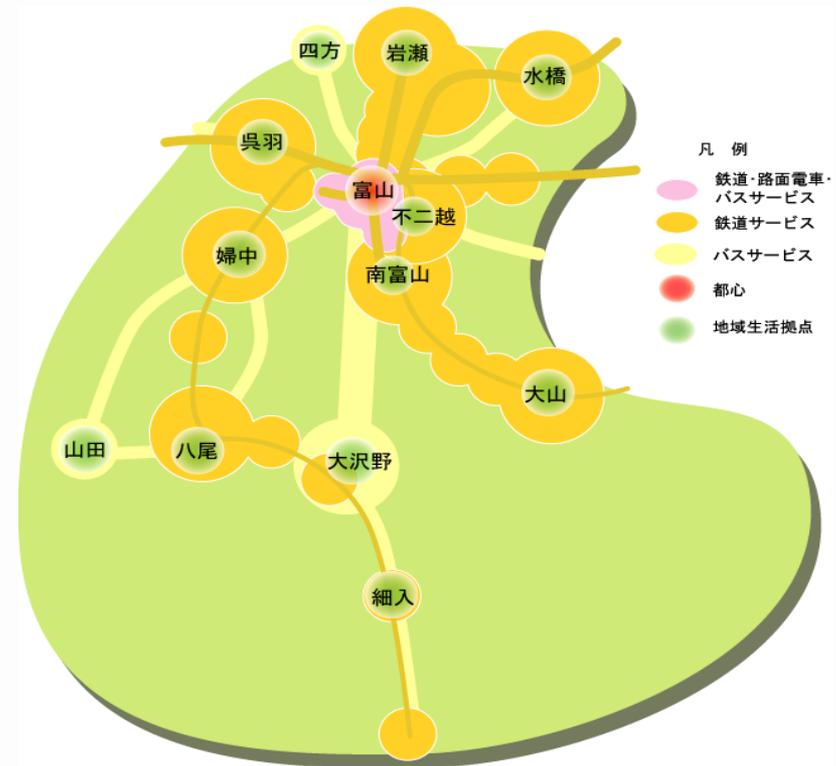
### 富山市が目指す「お団子と串」の都市構造

**串** :一定水準以上のサービスレベルの公共交通

**お団子**:串で結ばれた徒歩圏

## <実現するための3本柱>

- ① 公共交通の活性化
- ② 公共交通沿線地区への居住促進
- ③ 中心市街地の活性化





# LRTネットワークの形成 ～富山ライトレールの整備～

利用者の減少が続いていたJR富山港線を**公設民営**の考え方を導入し、**日本初の本格的LRTシステム**に蘇らせた取り組み

## <路線概要>

- 開業日：平成18年4月29日
- 延業長：7.6km  
(鉄道区間6.5km、軌道区間1.1km)
- 電停数：13
- 車両数：7編成(2両1編成)
- 所要時間：約25分(富山駅北～岩瀬浜)
- 運行間隔：15分(ラッシュ時は10分)

## <運行サービスの向上等>

運行間隔の改善、新駅の設置、低床車両の導入、ICカードの採用  
バリアフリー化、アテンダントの配置、フィーダーバスの運行 等



▲旧JR富山港線



▲富山ライトレール (愛称ポートラム)



# LRTネットワークの形成 ～市内電車環状線化～

中心市街地活性化と都心地区の回遊性の強化等を目的に、市内電車を一部延伸し、環状線化。日本初の**上下分離方式**により、市が軌道施設の整備を行う。

## <路線概要>

- 開業日：平成21年12月23日
- 延長：約0.9km（環状線区間約3.4km）
- 電停：延伸区間に3箇所新設
- 車両：新型低床車両を3編成導入



▲市内電車環状線(愛称:セントラム)



# 道路空間を活用した賑わい創出事業 ～トランジットモール空間の創出～

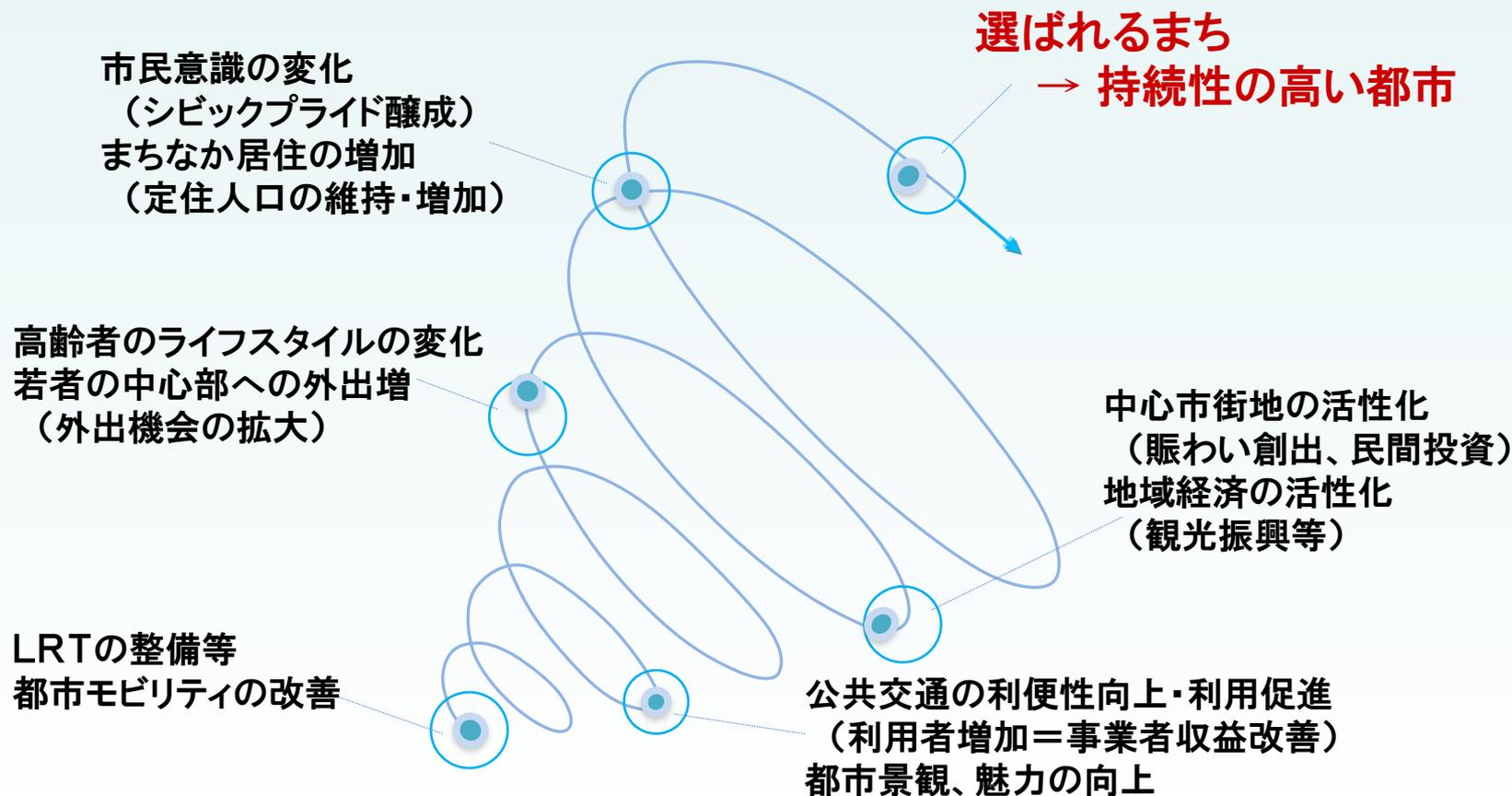
多くの来街者が安全にまち歩きを楽しめるよう、歩行者と路面電車だけが通行可能となる**トランジットモール**の社会実験を実施。

## 【事業概要】

- ①日 時:平成29年10月14日(土)、15日(日)
- ②場 所:大手モール(市内中心部)
- ③交通規制内容
  - ・路面電車は通常通りに運行
  - ・一般車両通行禁止
- ④同時開催のイベント  
オープンカフェ、音楽イベント、スポーツイベント



「正のスパイラル」が生まれ、「まち」や「ひと」にプラスの影響や変化をもたらしている



立山連峰から流れる豊富な水資源を活用した小水力発電の普及を目指す。



小水力発電所整備箇所

富山市が整備

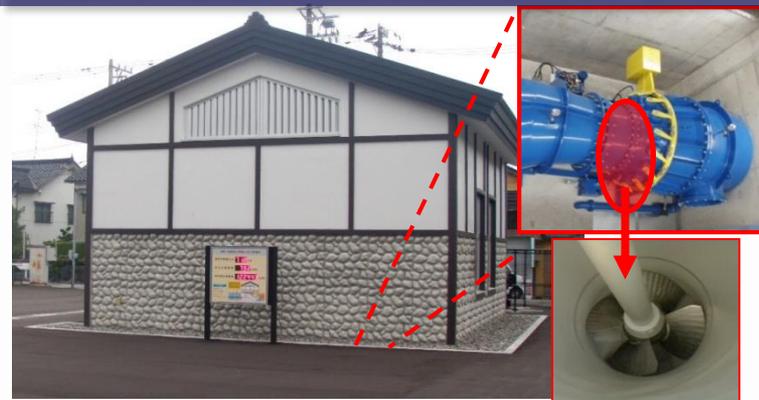


## 常西公園小水力発電所



■発電出力:9.9kW ■年間発電量:84,300kWh

## 東町・東新町公民館小水力発電所



■発電出力:88kW ■年間発電量:689,200kWh

企業や市民へ普及展開

富山市が先行して整備・普及を進めてきた結果、**民間事業者等による取組み**に展開。

## 西番小水力発電所（H27年5月11日竣工）



事業主体：常西用水土地改良区

発電出力：30.2kW

年間発電量：186,000kWh  
（一般家庭45世帯分相当）

年間CO<sub>2</sub>削減効果：104トン

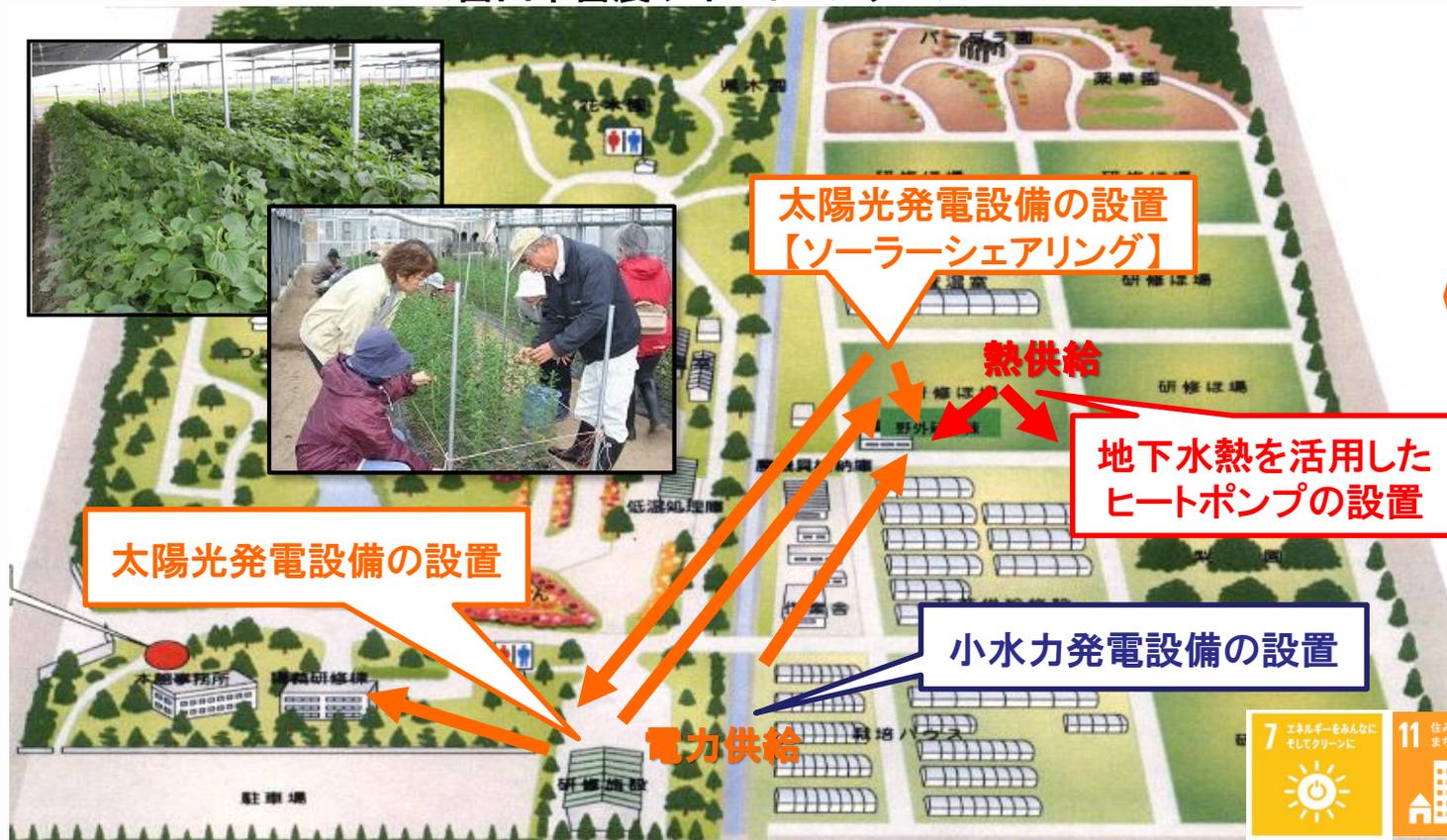
※今後さらに複数箇所で整備予定



# 再生可能エネルギーを活用した農業活性化

農業用水を活用した小水力発電設備や地下水熱を活用したハウス、太陽光発電設備を整備し、その再生可能エネルギーを農業等に幅広く活用することで、「農業の見える化」を図り、農山村や地域コミュニティを活性化する自立型の自給モデルを目指す。

## <富山市営農サポートセンター>



ヒートポンプ



太陽光発電



小水力発電



7 エネルギーをみんなに  
そしてクリーンに



11 住み続けられる  
まちづくりを



13 気候変動に  
具体的な対策を



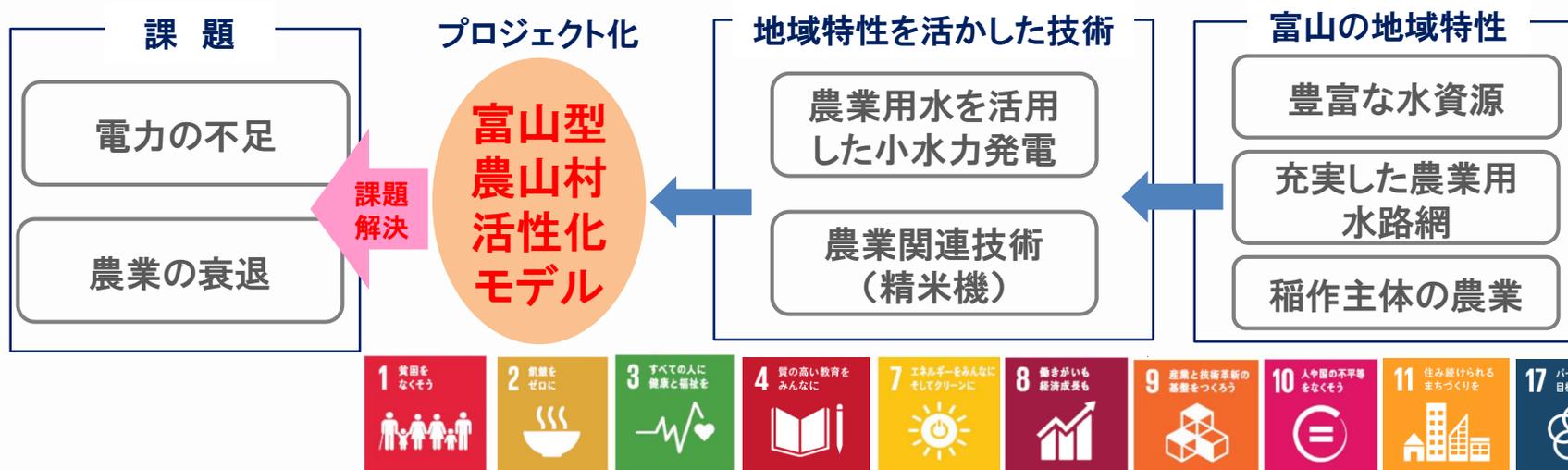
15 陸の豊かさも  
守ろう

# 再生可能エネルギーを活用した富山型農村活性化モデルの国際展開

「電力不足」や「農業衰退」の課題を解決するため、富山の地域特性を活かした「農業用水を活用した小水力発電」及び「農業関連技術(精米機)」を用い、「富山型農村活性化モデル」の国際展開を図る。



平成26年3月21日 インドネシア共和国バリ州タバナン県とプロジェクトの実施に関する協力協定を締結



# 環境未来都市プロジェクトの国際展開 ～東南アジア諸国との連携～



## バリ州タバナン県(インドネシア)

2014.3 協定締結  
小水力発電・農業関連技術の普及展開



## イスカンダル開発地域(マレーシア)

2015.2 協定締結  
小水力発電・太陽光発電技術の普及展開



## ブトゥアン市(フィリピン)

2016.10 覚書締結  
低炭素型都市開発のノウハウ提供



## スマラン市(インドネシア)

2016.12 協力要請  
小水力発電技術の普及展開



# 牛岳温泉熱等を活用した農業の6次産業化～エゴマの6次産業化～

環境未来都市プロジェクトとして、高齢化や過疎化が進む山田地域に植物栽培工場を整備し、「エゴマ」の特産品化を図るとともに、生産、加工、流通販売までを一体的に行う6次産業化を推進し、地域における雇用創出と健康長寿都市の実現を目指す。



## エゴマ

シソ科に属する一年草の薬用植物。  
食べると十年長生きできるとのいわれから  
「じゅうねん」とも呼ばれる。



## 事業効果

- 新たな特産品の創出を契機とした地域振興・地域活性化により、農山村の暮らしを維持
- 植物工場において、地元の高齢者を雇用し、高齢者の生きがいを創出
- 有用な成分を含むエゴマを病院や学校等の給食へ活用することにより、健康長寿都市を実現
- 露地栽培への展開(H25～)による耕作放棄地の活用



# エゴマの国際展開～イタリア食科学大学との協定締結と日伊共同研究～

平成27年5月、イタリアの**食科学大学**と、イタリア国外の自治体としては**世界初**となる協力協定を締結するとともに、エゴマ6次産業化を目指す環境未来都市プロジェクトの一環として、エゴマ油とオリーブ油を最適配合したグローバルなヘルシーオイルを開発すべく、**日伊共同研究**を開始することで合意。**2年間の研究を踏まえ、平成29年春に「ブレンドオイル」の成果を発表。**



協定を締結する森富山市長(写真左)とシルビオ・バルベーロ食科学大学副学長／スローフード協会副理事長(写真右)

ビジョンの共有



企業等へ知見を提供

6次産業化の推進・海外展開  
エゴマのブランディング



# “G7富山環境大臣会合開催記念” 未来に繋ぐ小学生植樹体験事業

G7富山環境大臣会合パラレルセッションの場で、イギリスの**ブリストル市**から報告された、『**One Tree Per Child**』を参考に、森林が持つ地球温暖化防止の効果を学び、環境教育の取り組みへの契機とするため、市内の**小学生による苗木の植樹体験事業**を創設。

## ～未来に繋ぐ小学生植樹体験事業～

事業期間：平成29年度から平成33年度まで(5年間)

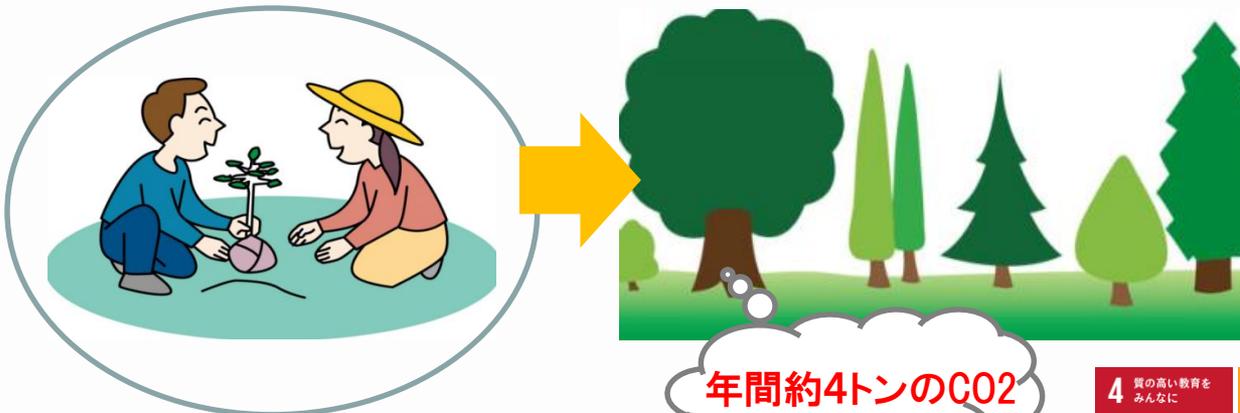
対象者：市内の小学生 約4,000人

実施方法：宿泊体験施設「こどもの村」の宿泊学習に合わせて実施。

苗木1本を4～5人の児童で植樹。(5年間で全小学校が体験)

植樹本数：約1,000本(1.09ha)

平成29年10月11日(水)に第1回の植樹式を開催



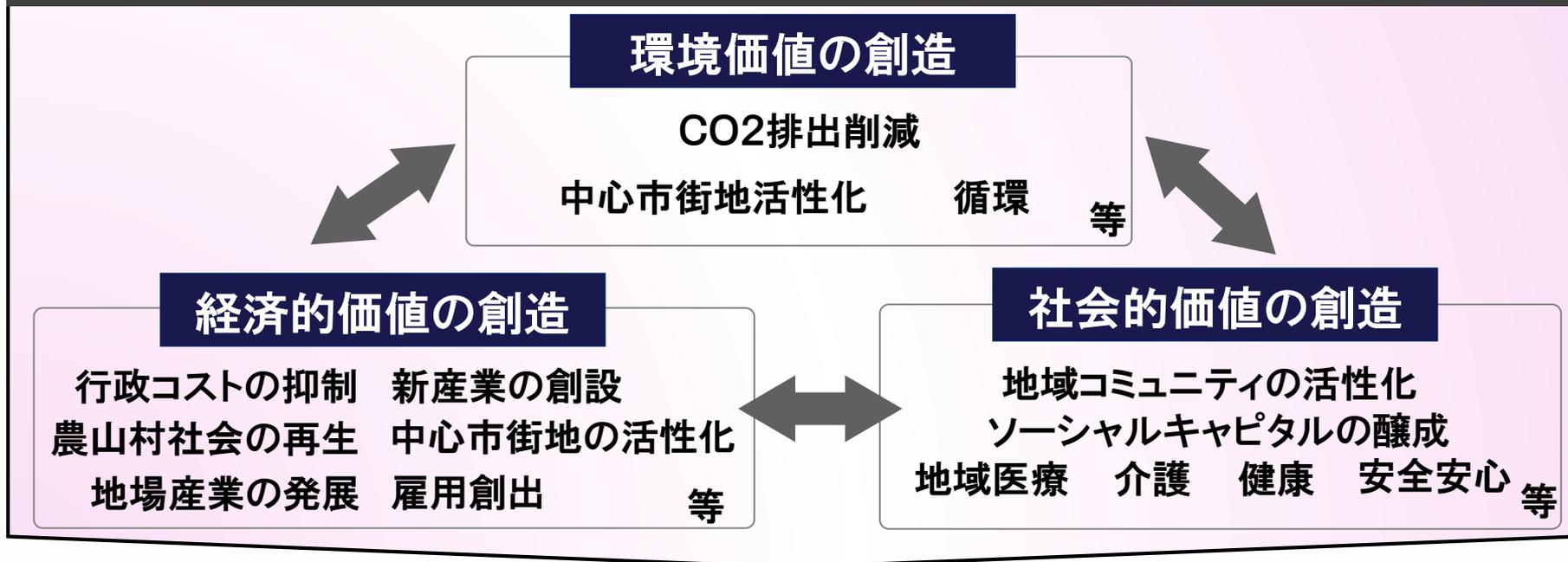
年間約4トンのCO2  
を削減

## 「One Tree Per Child」とは

オーストラリアで始まり、イギリス・ブリストル市でも広く展開されている植樹事業。子どもたちによる1人1本の植樹を通し、人の成長とともに木々も成長し、環境に優しい人と環境に優しい自然の形成が図られる。



## コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築



環境・社会・経済のイノベーションによる未来に開かれた都市へ

生活の質と環境が調和した「満足度の高い暮らし」の創生により、  
**持続型社会を実現**